

令和5年度 環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果共有会 発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備”に取り組む	
昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む	✓

活動団体名：岡山県瀬戸内市

活動地域：岡山県瀬戸内市

活動におけるテーマ

『「瀬戸内市オリジナルSDGsカードゲーム」を活用した
社会教育と学校教育の連携及び将来の担い手の育成』

活動団体および活動地域の紹介

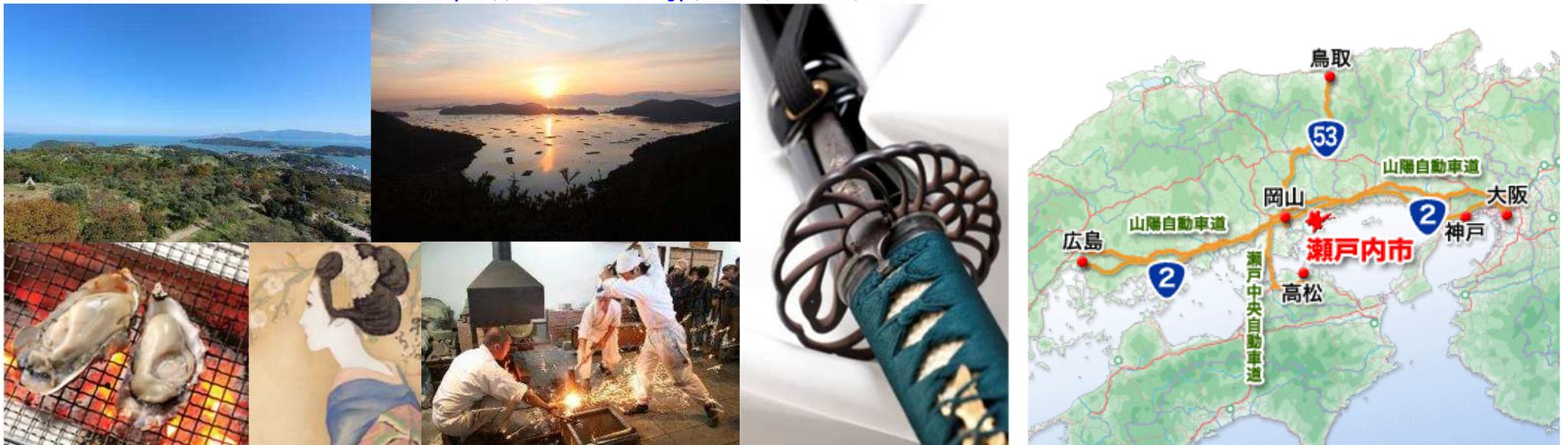
岡山県瀬戸内市のご紹介

- 平成16年11月に牛窓町、邑久町、長船町が合併し誕生
- 総面積125.46km²、人口36,048人(令和2年国勢調査)
- 瀬戸内海に面した丘陵地と、島々からなる：牛窓の多島美、迫門の曙
- 農業・漁業が盛ん：白菜、キャベツ、かぼちゃ、米、ぶどう、牡蠣
- 歴史と文化に彩られたまち：備前刀、竹久夢二、朝鮮通信使

<特徴的なプロジェクト>

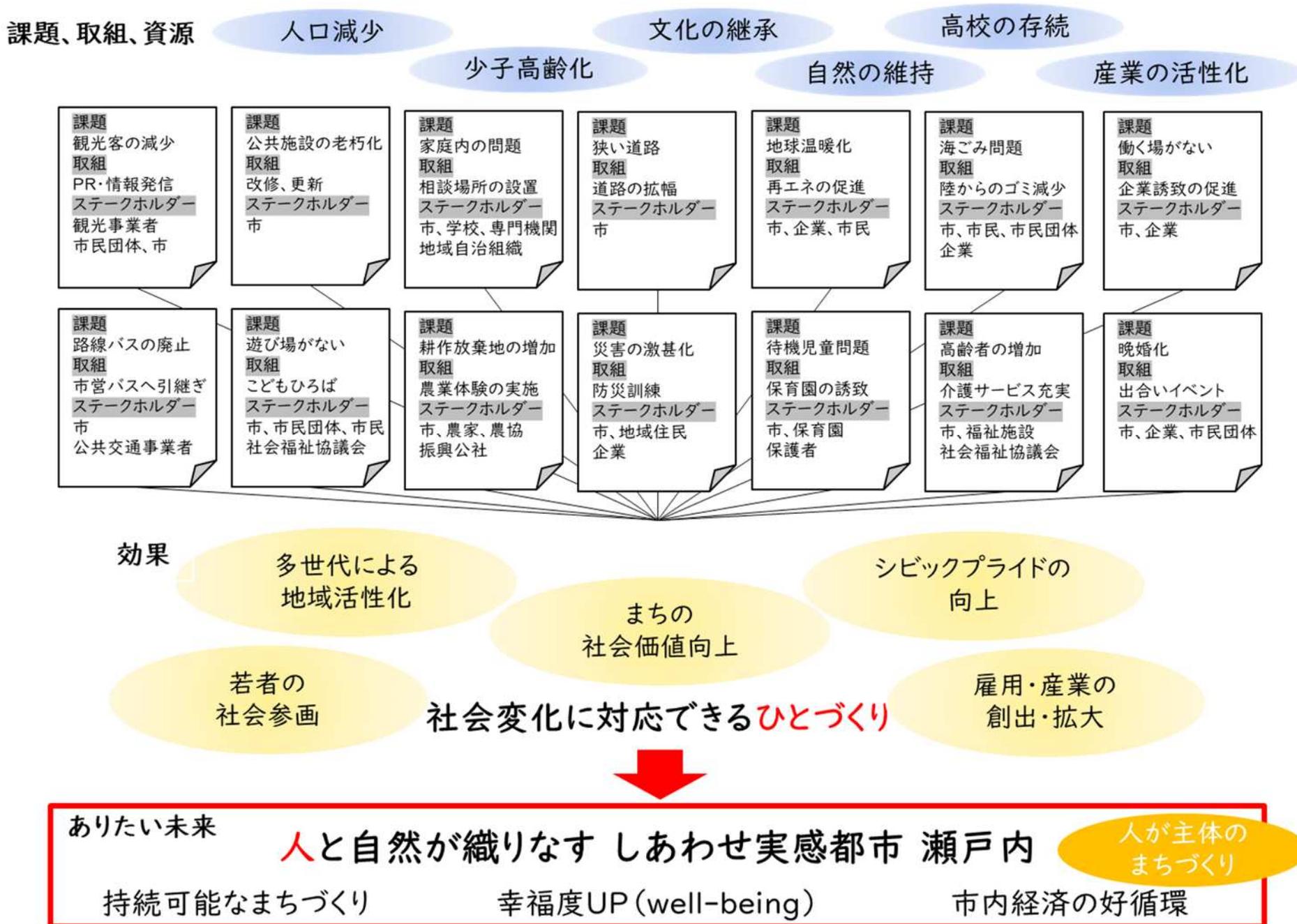
太陽のまちプロジェクト、山鳥毛里づくりプロジェクト、食のしあわせプロジェクト

- 瀬戸内市HP <https://www.city.setouchi.lg.jp/>
- 太陽のまちプロジェクト <https://www.city.setouchi.lg.jp/site/taiyounomachipj/>
- 山鳥毛里づくりプロジェクト <https://setouchi-cf.jp/village/about/>
- 食のしあわせプロジェクト <https://setouchi-cf.jp/food/about/>

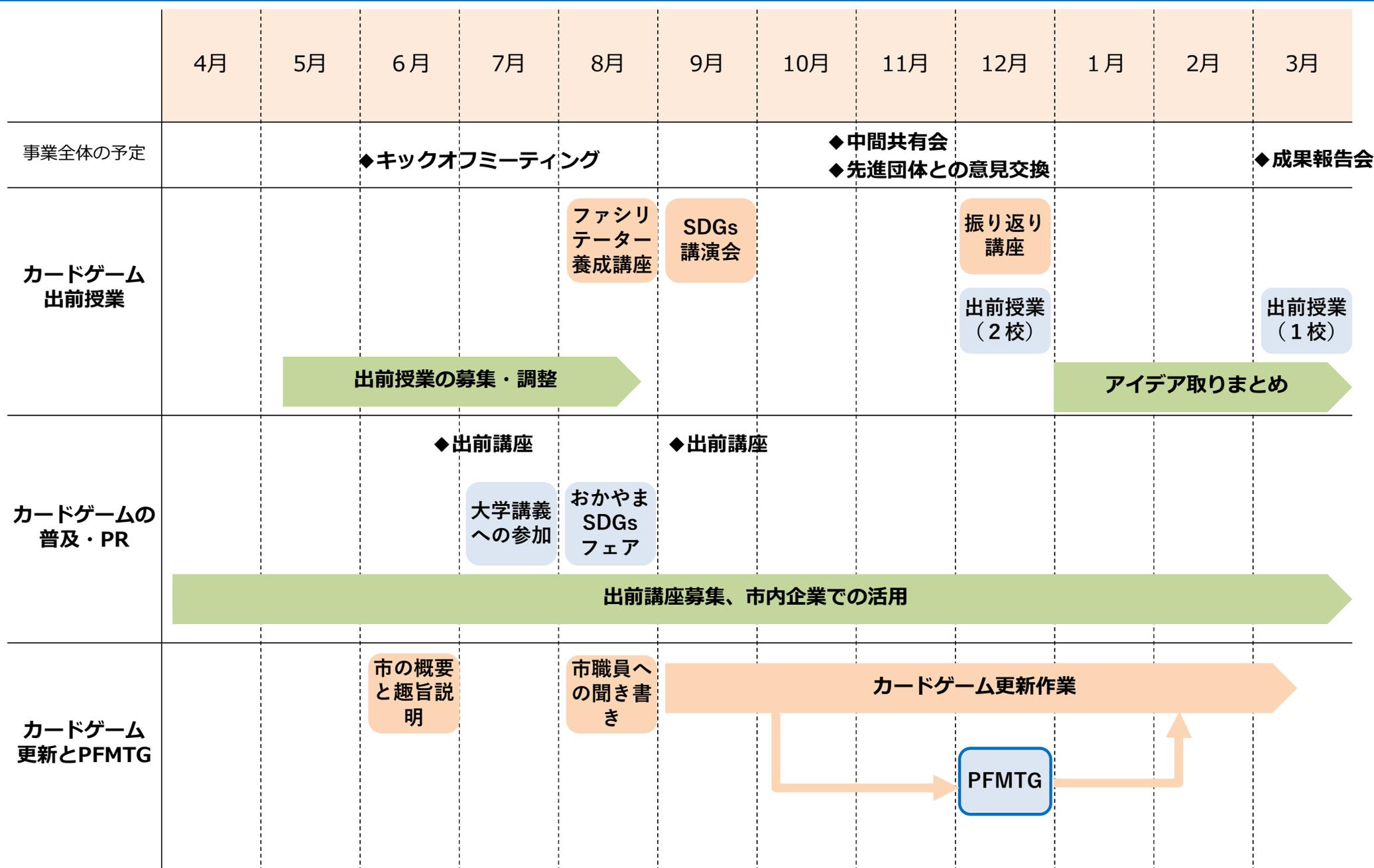


地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

瀬戸内市版マングラ ver.1.1 日本一のまちをつくる“ひとづくり”プラットフォーム



年間スケジュール



高校主体の活動



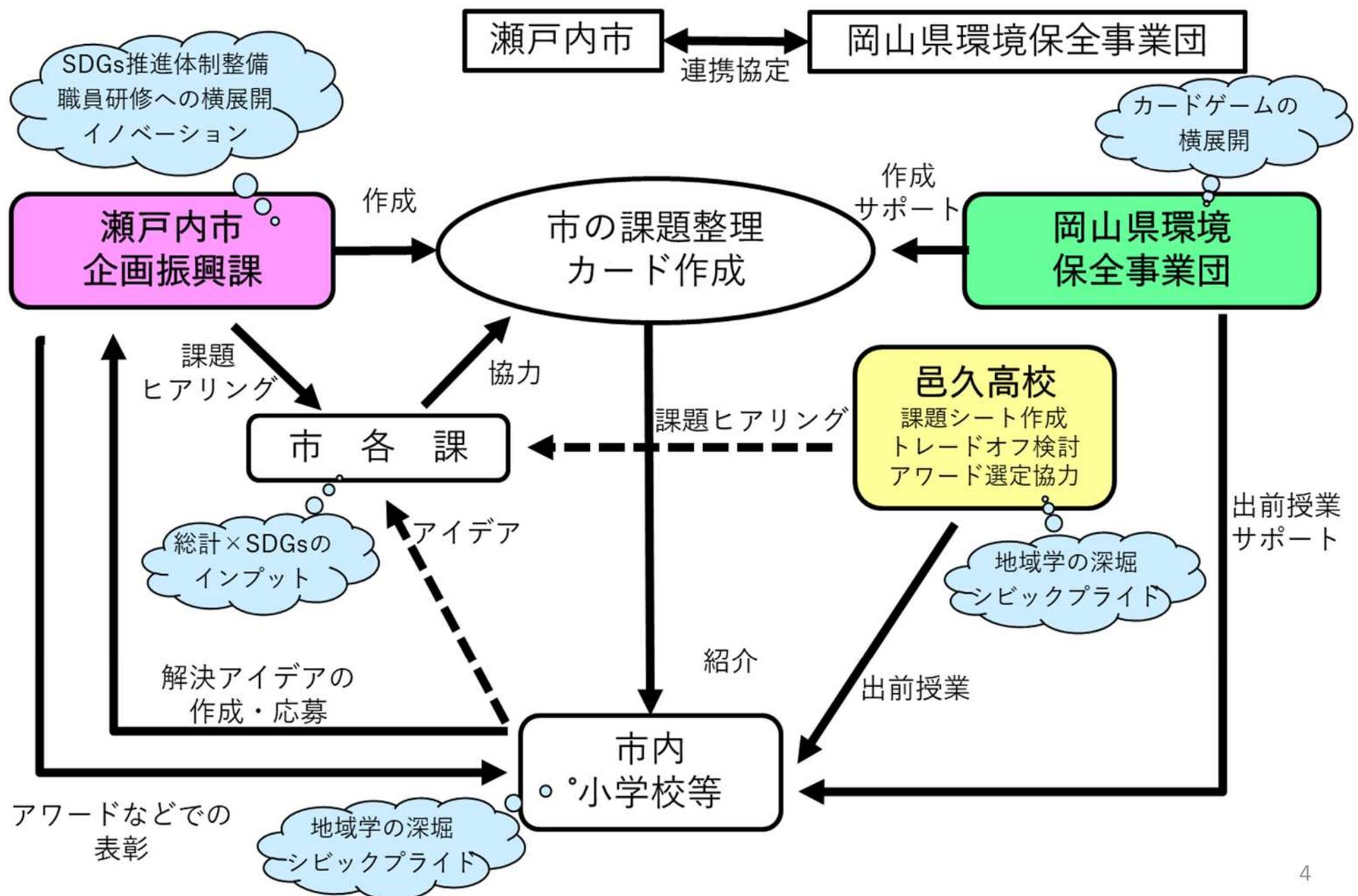
市主体の活動



市と高校が連携した活動

今年度チャレンジした主な取組内容

「瀬戸内市オリジナルSDGsカードゲーム」のスキーム



今年度チャレンジした主な取組内容

取組①「カードゲーム出前授業」

【活動内容】

- ファシリテーター養成講座（R5年8月）
- SDGs講演会（R5年9月）
- 振り返り講座（R5年12月）
- **小学校での出前授業**（R5年12月）
- **中学校での出前授業**（R6年3月）

県立邑久高校の取組を「環境教育・ESD実践動画100選」に認定いただきました！

<https://www.city.setouchi.lg.jp/soshiki/8/139240.html>

【成果や気づき】

- 来年度以降、**高校で持続**できるようファシリテーター養成講座を動画で記録した。
- SDGs講演会を開催したことで、高校生がトレードオフについて学び、カードゲーム更新作業の精度が上がった。
- **子どもたちの地域への関心**が増した。

【活動の様子（写真など）】

- NHKニュース（出前授業）

<https://www3.nhk.or.jp/news/okayama/20231222/4020018983.html>



取組②「カードゲームの普及・PR」

【活動内容】

市内への普及促進

- 出前講座の開催

高校生と連携したPR

- 大学での出前講義（R5年7月）
- **おかやまSDGsフェアでのPR・体験会の実施**（R5年8月）

【成果や気づき】

- 出前講座やイベント出展により、**少しずつ取組の周知が図られている。**
- おかやまSDGsフェアでは高校・中学校教諭の方々に教育コンテンツとして興味も持っていただいた。

【活動の様子】



取組③「カードゲーム更新とPFMTG」

【活動内容】

高校生によるカードゲーム更新作業

- 市の概要とカードゲーム事業の趣旨説明（R5年6月）
- 市職員に市の課題などを聞き書き（R5年8月／市職員19人参加）
- カードゲーム更新作業

PHMTG

- 高校生のファシリテートによるカードゲーム体験とカードゲームの更新、制度の継続のための仕組み検討（R5年12月／参加者約70人）

【成果や気づき】

- **PHMTGで事業の仕組みや継続を協議。**
- **新たに参画してくれる団体等が増えた。**

【成果や気づき】



現状の地域プラットフォームと取組を通じての変化

【現状の地域プラットフォーム】

- 本事業は、瀬戸内市企画振興課（政策担当）と市内唯一の県立邑久高等学校、本市とSDGsに関する連携協定を締結している岡山県環境保全事業団の3者が中心となり、子どもを中心に据えた地域プラットフォームを構築している。
- 今年度は、カードゲーム事業を担った邑久高校1年生も参画し、地域課題や地域資源を共有するために、ありたい未来の姿や本取組継続に向けた仕組みづくりを協議する場として開催した。



【地域プラットフォームの変化】

- 県立邑久高校は地域貢献活動等に積極的に取り組まれていることから、「邑久高校のためなら協力したい」という参画者が多く、普段つながりのない市役所各課や様々な分野の地域ステークホルダーの参画に繋がっている。
- SDGsの推進は非常に難しいことであると考えていた地域の方々も、カードゲームを体験することで、「SDGs = 地域課題解決や持続可能なまちづくり」であると理解し、身近なものと感じてくれるようになった。小学生や子どもたちには地域への愛着を醸成するツールにもなっている。
- PFMTGで、企業や地域でのSDGsの取組が共有され、地域内での先進的な取組などの周知が図られた。



プラットフォーム形成のポイント

地域のビジョンを描く

- 市の最上位計画である総合計画と関連付けた事業であり、総合計画をベースに、将来像や地域課題の共有を図った。

仲間を探す

- 市の総合計画を所管する企画振興課が旗振り役となったことで、市役所内の巻き込み、及び地域の様々な関係者の巻き込みがスムーズにできた。

体制を整える

- 邑久高校を起点としたことで、将来の子どもたちのための事業として、様々な関係者が前向きに議論する場を整えることができた。

事業を考える

- 地域の小学生、中学生、高校生など未来を担う子どもたちが、地域課題を知り、その解決方法をSDGsの視点で考えるプログラムとステークホルダーが関わる仕組みづくりができた。

事業を生み出す

- 異業種・団体が同じ目的で集まる機会が創出できた。



取組を通しての成果と新たに見えてきた課題

【取組全体を通しての成果】

- カードゲームの取組により、地域課題解決のための主権者教育と解決アイデア創出が行われる仕組みづくりができた。



- 本市の総合計画と企画調整を担う市企画振興課が全体統括を担ったことで、市の最上位計画と連動した取組となり、市役所内及び市内多様なステークホルダーの巻き込みがスムーズにできた。



- 子どもたちが、まちの課題を知り、まちづくりの担い手として参画をする仕組みができた。



【取組全体を通して新たに見えてきた課題等】

- カードゲームで発想された子どもたちの解決アイデアが、具体的な成果として実現・実装につなげる必要がある。
- 豊富な地域資源を持続的に活用して環境・経済・社会を良くしていく事業を生み出し続ける仕組みが必要。
- 地域のステークホルダーの理解と共感を広げ、それぞれが得意分野を持ち寄り協力し、自らの力で地域課題を解決する自立・分散型の地域づくりにつなげる必要がある。

- 事業のアウトプットを明確化し、地域の人・モノ・資金の循環を図り、瀬戸内市版地域循環共生圏を形成していきたい。

ロードマップとKPIの設定が必要!!

活動における今後の展望

地域のビジョンを描く

- 来年度は地方版総合戦略の改訂も予定しており、子どもたちの意見も踏まえた戦略の改訂や、事業のより一層の拡充を図る。

仲間を探す

- 市内外での事業のPR等を行うことにより、事業への理解・共感の輪を広げる。
- 子どもたちのアイデア実現に必要なステークホルダーに参加を促す。

体制を整える

- 今後のロードマップやKPIを設定する。
- 知見のある団体等に伴走支援を依頼、連携しながら地域体制を整える。

事業を考える

- 市内の様々な関係者が、フラットな立場で、子どもたちの課題解決アイデアや地域資源を活用した事業を考える（協議会や部会の設置）。

事業を生み出す

- 地域資源と、地域の様々な関係者の強みを活かし、地域による地域のための地域循環共生圏づくりを行うことで、環境・社会・経済問題の改善・解決につなげる。